

平成22(2010)年1月23日(土)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

<http://www.nakayama-clinic.jp>

## 今年のスローライフ

院長 中山 茂樹

あけましておめでとうございます。

本院が市街地の四谷町にあったビルからかなり離れたこの地多田に独立建物として移ったのが平成7年も押し詰まった12月15日、以来、ここより新年のご挨拶をさせて頂くのも早15回目となりました。ゆっくりと進んで来たつもりが意外と早く経った年月でした。

近年、世の中の不況が厳しく、一昨年は年末年始東京では職にあぶれた人達の派遣村がメディアでよく取り上げられていたのが今年はすっかりなを潜めてはいますが、世情は何も変わらず就職難や不景気の風は厳しいようです。バブル崩壊後の不安定経済は変わりなく続いています。

振り返れば、戦後、廃墟の都市の中から昭和25(1950)年からの朝鮮戦争の特需を得て経済が立ち直ったわが国は国民総中流意識とか言われるようになりましたが、それも今や死語になったようです。派遣村に見るようにとことん食っていけない人とごく裕福な人との差が広がっています。

私は今こそスローライフ、昭和30年台の生活が今の日本の目指すところではないかと思っています。贅沢精神はないから残飯はない。物が少ないから余分なものは買わない、電気ごたつもエアコンもないから木炭による火鉢か掘り炬燵を抱え込む、といったシンプルな生活に国民が満たされれば、貧富の差が広がらず、メタボも無くなり、文明の力を借りた強者社会、環境破壊もうんと少なくなるのではないかと考えています。

私は昔から「人間、起きて半畳、寝て一畳」という言葉が好きです。私のような24時間拘束された生活の中では物欲(ぶつよく)には囚われないのでゆったりとした時間を極力保つように心がけております。時間的余裕のない状況であくせくしても何も変わらないからです。

不景気、景気に左右されない自然に接した生き方がしてみたいですね。テレビ、インターネットなどのマシーンがない生活をしてみるときっと意外と何もすることが無くなり、そうなる趣味に生きるという生活が待っているのではないかな。私にとっては、キャンバスに向かって絵を描いてみたいなというような衝動に駆られそうです。

さて、今の政府は「コンクリートより人間」というスローガンを掲げていますが、その点は私も大賛成です。皆様も今



新年の中山院長一家 真ん中は小六の雄貴君  
年はどうかスローライフ、昭和30年台の生活を思い出して生活してみても如何でしょうか。(と言ってももはや平成生まれの人が成人式を迎えたのでしたっけ)

## 再就職して 看護師 波濤 美佐子

私は以前も産婦人科に勤めていました。

20年以上勤めていた病院が6年前になくなってしまいました。なくなると聞いた時は急でびっくりして早く次の就職を決めなければと思い、友達で紹介で市内の病院に勤めることになりました。

最初勤めた病棟は産科でなく、内科病棟で高齢者が多く、オムツ交換や入浴介助の患者さんが多数いて、毎日介護するには先ず自分に体力が必要と思いました。

そう思っているうちに2年が過ぎて、勤務移動の希望を聞かれた時は思わず「産科」と答えていました。でもそれは通らず同じ病棟になっていました。それでも仕方がない頑張ろうと思いつつ4年経った頃ふと考えたのです。産科における出産という新しい生命の誕生は何度見ても感動します。やはりその仕事をしようと。

そこで、もう一度という気持ちで本院に勤めさせて頂くことになりました。産科を辞めてから4年の間があったのでいろんな不安が頭に浮かんできました。実際勤めてみてこの歳での再就職はいろんな面で大変だということも分かりました。何かとご迷惑をおかけすると思いますが頑張りますのでどうかよろしくお願ひします。

【あとがき】1) 新型インフルエンザ、もう収まったのかと思っているとまた焼けぼくいがくすぶり出したかのような様相があります。ご用心下さい。2) 当院ミニギャラリーは田中教子さん(小浜市甲ヶ崎)のフレスコ画です。ご鑑賞下さい。